

地域活性化シンポジウム 11月5日 質問内容

質問者：シンポジウム参加者（アンケートより）

回答者：渡邊法子氏 京丹後観光協会事務局長

Q 1

よいお話だったと思いますが、先生が投げてくださいだったボールを参加者がうまくキャッチできたかどうかが問題だと思います。私としてはいただいたプリントが参考になりました。地域活性化の主役はもちろん地域。まずは「地域にあるものさがし」からだなと思いました。

A 1

ご参加ありがとうございました。八幡平の地域の皆様が、ますます地域の魅力を活用し、活性化を実現されますよう、心よりお祈りいたします。

Q 2

広報に関してパブリシティを上手に活用されていますが、マスコミへのアプローチの方法は？

A 2

大いにプレスリリースしてください。その際は、日本で初めて、日本一など、関心を惹くような《キャッチフレーズ》でアピールを。

また季節性のある話題なども取り上げてくれる可能性が高いと思います。内容を記入する文面は、具体的によりわかりやすく、なるべく情報量は多いほうがよろしいかと思います。

Q 3

新たなプロジェクトの立ち上げにあたり、観光の基礎データをはじめ観光における行政、体験プログラム、組織、宿泊施設の情報集計のまとめ方などよろしければ可能な範囲で教えていただければ幸いです。

A 3

観光統計などの基礎データは、行政関係などが毎年、数字でおさえておられるかと思います。宿泊数等も温泉の入湯税などから割り出すことができているかと思います。

体験プログラムの情報集計については、もしまとまったものが無いのであれば、むしろ、ひとつひとつ掘り起こしをするつもりで、実際に歩いて収集する必要があります。これは、着地型旅行商品の商材シートにもなりますので大切な情報だと思います。

Q 4

（株）テンキテンキ村について年間200万円の収益があるとのことですが、収入は手配の手数料のみなのでしょうか。また、人件費も含めた費用はどのくらいかかり、どのくらいの収入があるのかよろしければお教えてください。（旅行業の資格をとっても赤字にしかならないとよく聞くので）

A 4

「年間200万の収益を基本に」とお伝えいたしましたのは「稲取温泉」の駅前案内所の送客手数料の収益です。平成19年、基本的な収益源として見込んで着地型旅行会社を発足させました。

京丹後の取り組みでは、道の駅のテンキテンキ村が、基本の事業をさまざま展開しており、基本的な収益源があります。また新規旅行事業展開ではインバウンド事業を柱としており、展開していく予定です。

収益源として事務所運営費、旅行取扱有資格者および業務を執行する担当者の、人件費が捻出できる程度の収益源を確保する事業計画を立てておかなければならないと思います。

稲取温泉観光合同会社では、定年退職者の有資格者、パートさんお一人の人件費をベースとして上記基本収益源内で運営、事務所については開設当初は稲取温泉旅館協同組合の駅前案内所、2年目には稲取温泉

観光協会の事務所と共用することにより経費を削減したり捻出しました。

京丹後では㈱テンキテンキ村の新規事業展開という位置付けで展開しています。道の駅内ですので事務所費用などについては問題無く、新たに2名を雇用いたしましたので、今後、人件費について事業展開しながら捻出していく計画です。

Q 5

旅する女性が多くなりましたが宿泊の際に差別されないでしょうかー。

私は県内の宿泊地へ予約の電話をした時に、女性一人と言ったとたんイライラした声で「旅館なので、どうしますか、やめますか」と言われました。観光地を目指して地域づくりをしている地域の旅館でしたが・・・。

A 5

女性が差別されるのではなく[1人で宿泊]というのが敬遠される場合があるのだと思います。旅館ではいまだに1部屋5人程度の客室稼働率を基準に宿泊数をみているケースがありますので、特に土日やGWなどのお客様の多い時期には拒否されることも多いようです。「お一人でも、泊食分離でも喜んで」というお宿もなかにはあります。要はお客様の旅館がニーズにお応えしていけるかどうかだと思います。宿泊施設によって違いますので地域全体で取り組むことは難しいかもしれません。

Q 6

お三人に質問ですが、地域活性化に若者を参加させる方法は？また、参加させる必要はないですか？

A 6

地域づくりには大いに主体的な方に参加していただきたいと思います。若い方も歓迎です。若い方に活動を広げる方法はいろいろあると思います。商工会でしたら青年部メンバーがおります。お子さんがいるメンバーであれば、PTAの仲間がおられたりするので、広く呼びかけていただくなどして、地域活性化の活動に参加するメンバーの裾野を広げられると思います。

Q 7

安比高原に住んでいます。観光客が来てくれてありがたいことですが私たちの地域は安比が管理してくださっているので自主性がなくボランティア作業は思うようにできません。それでも自宅の刈り払いなどしていますが・・・。いいのかな？と不安もあります。

A 7

もういちど、安比高原の地域資源（自然や歴史など、どんなことでも関心があること）を見直してみる必要があると思います。できればそういった活動から安比らしい独自の魅力を発掘し発信していくような地域活動を繰り広げていただければと思います。

Q 8

旅館業などの本来の観光関連事業者以外の住民の人は、本業はなんですか？女性や退職者が多く関わっているのですか？（京丹後、稲取温泉それぞれについて）

A 8

京丹後では、漁師さん、主婦、小旅館経営者、民宿おかみさん、情報発信事業主、定年退職者、観光施設職員、旅館従業員など

稲取温泉では、農家さん、漁師さん、大工さん、理容師さん、水道工事事業主、旅館従業員、マリンスポーツインストラクターなど

Q 9

実例についてもう一度講演を聴きたい。

A 9

時間が足りなかったですね。

Q 10

短い時間だったせいか、あまり具体的でなく目新しいことでもなかったので少し残念でした。

A 10

八幡平の皆さんが稲取温泉を訪ねて下さっていたことから稲取の事例が中心になり、失礼しました。京丹後でも新たな取り組みが始まっております。また京丹後で取り組みの収益源となるインバウンド事業については、まったく触れることができませんでした。

Q 11

ジオツーリズムは八幡平市にとってもとても魅力的なものになると思います。ありがたいお話でした。

A 11

京丹後ではジオツーリズム特区の提案をしており、全国のモデルケースを目指しています。ぜひ一度、おでかけください。

Q 12

町づくりを住民の方はどういう捉え方をして、協力しているのか。今行き詰っているのはどんな問題か。

A 12

協力しているという意識では長続きしないと思います。どこまでも主体的な活動として「大好きな我が地域を多くの人に知ってもらおう！来てもらおう！また来てください！という心を活動にしてもらいたい。」と考え、促進しています。

「こうあらねばならない。」という考えは無く、ゆるやかでフラットな活動ですし、今のところ行き詰まりはありませんが、いかに活動を継続させられるか、つまり財源をどう確保して活動を繰り広げていくか・・・という点が課題だと思えます。